

令和 2 年 度

小中学校における道徳性を養う「道徳科の時間」 の在り方に関する実践研究

仁 王 小 学 校	淵 向 大 輝
見 前 小 学 校	長 門 哲 汰
上 田 中 学 校	高 橋 聡 子
北 松 園 中 学 校	菊 地 満
学校教育課指導主事	山 下 るり子

令和 3 年 1 月
盛岡市教育研究所

目 次

I	研究主題	1
II	主題設定の理由	1
III	研究の基本的な考え	1
IV	研究の目標	3
V	研究の仮説	3
VI	研究の内容と方法	3
VII	研究組織	3
VIII	研究の計画	4
IX	研究の実際	5
	1 仁王小学校	5
	2 見前小学校	11
	3 上田中学校	17
	4 北松園中学校	23
X	研究のまとめ	30

I 研究主題

道徳性を養う道徳科の授業の充実に関する実践研究 — 考え、議論する授業への質的改善を通して —

II 主題設定の理由

「特別の教科 道徳（道徳科）」は、小学校及び特別支援学校小学部においては平成 30 年度から、中学校及び特別支援学校中学部においては令和元年度から全面実施された。

今回の改訂は、「答えが一つではない課題に子供たちが道徳的に向き合い、考え、議論する」道徳授業への転換により児童生徒の道徳性を育むことを目指しており、子どもたちにとって、道徳的諸価値についての理解をもとに、自分を見つめ、自己の生き方や人間としての生き方についての考えを深める学びの積み重ねが一層重要となる。

改訂の趣旨を踏まえ、これからは、「考え、議論する道徳」への質的転換に向けて、道徳的価値に迫る教材の活用や、道徳的価値に関する問題解決的な学習・体験的な学習など、多様な指導方法を取り入れた授業を各学校で展開する必要がある。

実際に、研究員が自身の道徳授業に課題を感じていることとしては、①よりよく生きるための基盤となる「道徳性」をさらに養いたい ②「自己を見つめ、物事を多面的・多角的」に考える授業への質的転換を図りたい ③多様な指導方法の工夫と評価の在り方を実際に学びたいと考えていることが挙げられた。

そこで、これらのことから、本研究において、学習指導要領改訂における指導と評価の在り方について理解を深め、改訂の趣旨を生かした道徳科の授業改善に取り組むこととし、本主題を設定した。

III 研究の基本的な考え

「道徳性」の諸様相については、「学習指導要領（平成 29 年 6 月告示）解説」で、次の通り説明されている。

「道徳的判断力」

それぞれの場面で善悪を判断する能力

「道徳的心情」

道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情

「道徳的実践意欲」

道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし、道徳的価値を実現しようとする意志の働き

「道徳的態度」

道徳的判断力や道徳的心情に裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え

これらの「道徳性」を養うために行う道徳科の学習を、学習指導要領（平成 29 年 6 月）「第 2 節 道徳科の目標」から、次のように整理した。

(1) 道徳的価値について理解する

- ・ 内容項目を、人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること（価値理解）
- ・ 道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること（人間理解）
- ・ 道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であることを前提として理解すること（他者理解）

(2) 自己を見つめる

これまでの自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら、さらに考えを深める学習を通して、自己理解を深めること

(3) 物事を多面的・多角的に考える

多様な感じ方や考え方に接しながら多面的・多角的に考える学習を通して、道徳的価値のよさや意義、困難さ、多様さなどを理解すること

(4) 自己（人間として）の生き方について考えを深める

- ・ 道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止めること
- ・ 身近な集団の中で自分の特徴などを知り、伸ばしたい自己を深く見つめること
- ・ これからの生き方の課題を考え、それを自己（人間として）の生き方として実現していこうとする思いや願いを深めること

これらのことが児童生徒の実態に応じて計画的になされるよう、次のような工夫が必要である。

①自らの成長を実感したり、課題や目標を見つけたりする工夫

②児童生徒が自ら考え理解し、主体的に学習に取り組む工夫

③人間としての弱さを認め、それを乗り越えてよりよく生きようとするためのよさについて、教師が共に考える姿勢

そこで、本研究では、①②に重点を置き、問題意識をもち自分の事として考えたり、道徳的価値を基に自己を見つめたりすることができるような発問や話し合い活動等、多様で柔軟な指導方法について、実践的に明らかにしていくこととした。

また、先述した指導の工夫が、道徳性を養う授業改善につながっているか検証するために、「学習活動に着目した評価」を行う。観点については、学習指導要領（平成 29 年 6 月）「第 3 節 道徳科の授業に対する評価」から、次のように整理し、指導と評価の一体化の実現を目指す。

ア 学習指導過程は、道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、自己の生き方について考えを深められるように構成されていたか。

また、指導の手立てはねらいに即した適切なものとなっていたか。

イ 発問は、児童生徒が多面的・多角的に考えることができる問い、自分のこととして捉えることができる問いなど、指導の意図に基づいて的確になされていたか。

ウ 児童生徒の発言を傾聴して受け止め、発問に対する反応を適切に指導に生かしていたか。

エ 自分自身との関わりで、多面的・多角的に考えさせるための、教材や教具の活用は適切であったか。

オ 指導方法は、児童生徒の実態や発達段階にふさわしいものであったか。

カ 特に配慮を要する児童生徒に適切に対応していたか。

基本的には、「授業者自らの評価」となるが、本研究では、授業研究会を通して、「他の教師による評価」を交流し、より具体的なフィードバックを実現していきたい。授業改善に資する資料となるよう、多面的・多角的な評価を心掛けるとともに、児童生徒が伸びやかに互いの感じ方や考え方を述べたり受容したりできる学級経営の在り方についても協議の視点とする。

本研究における「評価」が指導に生かされ、結果的に児童生徒の成長につながるものになるよう、指導のねらいとの関わりにおいて、個々の学びの姿を次の視点で捉えていく。

一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか

- ▶ 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やその時の心情を様々な視点から捉えようとしている。
- ▶ 自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている。
- ▶ 複数の道徳的価値の対立が生じる場合において、取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしている。

道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか

- ▶ 教材の登場人物に自分を置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている。
- ▶ 現在の自分自身を振り返り、自ら行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目している。
- ▶ 道徳的な問題に対して、自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解をさらに深めている。
- ▶ 道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている。

授業のねらいは明確に設定するものの、その達成度の基準を設定し評価することはふさわしくない。上記の視点をもって、児童生徒の学びの姿を見取り、個々の成長を認め励ます個人内評価の在り方について実践的に明らかにしていくこととする。

IV 研究の目標

考え、議論する道徳の時間をめざし、児童生徒が、自分自身やさまざまな人・集団や社会・生命や自然とのかかわりの中で、多面的・多角的に思考して道徳性を養う方途を実践的に明らかにする。

V 研究の仮説

道徳科において、考え、議論することを促す手立てを講じれば、授業の質的転換がなされ、児童生徒の道徳性が養われるであろう。

VI 研究内容と方法

1 研究内容

- (1) 自分自身との関わりでの価値の深まりを促す発問と学習活動の在り方
- (2) 学習活動に着目した評価の在り方

2 研究方法

- (1) 研究内容 (1) (2) に重点をおいた研究員による授業実践
- (2) 研究内容 (1) (2) に係る手立て等を検証する授業研究会

VII 研究組織

班 長	高橋 聡子 (上田中学校)
副班長	瀏向 大樹 (仁王小学校)
記 録	菊地 満 (北松園中学校)
班 員	長門 哲汰 (見前小学校)

担当指導主事 山下 るり子

VIII 研究計画

月 日	活 動 内 容
6月9日	第1回班会議 研究推進について・日程調整
6月19日	第2回班会議 理論研究・指導構想の検討
7月9日	第3回班会議 授業実践①研究協議 【授業者】 洵向大樹 教諭 仁王小6 学年 「移動教室の夜」 (善悪の判断, 自律, 自由と責任)
8月26日	第4回班会議 授業実践②研究協議 【授業者】 菊地 満 教諭 北松園中1 学年 「決断! 骨髄バンク移植 第1号」 (命の尊さ)
9月28日	第5回班会議 授業実践③研究協議 【授業者】 長門哲汰 教諭 見前小6 学年 「ロレンゾの友情」 (友情, 信頼)
10月15日	第6回班会議 授業実践④研究協議 【授業者】 高橋聡子 教諭 上田中1 学年 「ごみ箱をもっと増やして」 (遵法精神, 公德心)
～ 11月6日	研究紀要原稿完成 ・各自の実践について執筆 ・班内推敲
1月6日	第55回教育研究所発表大会
1月6日～	研究の反省とまとめ

重点①②による改善を図るための手立て

【手立て1】 自分自身との関わりでの価値の深まりを促す発問と学習活動の在り方

【手立て2】 学習活動に着目した評価の在り方

<授業実践①>

【手立て1】

- ・自分の生活経験と関わらせながら道徳的価値の理解を深める導入
- ・多様な考えを分類・整理する問い返しや板書の位置付け
- ・展開後段の段階における道徳的諸様相を養う話し合い活動

【手立て2】

- ・授業のねらいに応じた児童の見取り

<授業実践②>

【手立て1】

- ・具体的なイメージを図る主発問
- ・実感を伴う理解を促す価値実現の難しさ
- ・道徳的価値の理解を深める議論

【手立て2】

- ・学習活動の様子・発言の観察
- ・道徳学習シートの活用
- ・価値意識の変容を自覚できる活動や変容を表すシートの活用

<授業実践③>

【手立て1】

- ・主題について考えやすい環境を整える工夫 (事前アンケートの活用)
- ・議論を重点化した授業展開の工夫

【手立て2】

- ・話し合いの方法を統一することにより表れる積極性を見取り
- ・自分自身の問題意識へと返す振り返り

<授業実践④>

【手立て1】

- ・導入における三段構成
- ・単元テーマとの関係性

【手立て2】

- ・観察による評価・言語分析による評価

IX 研究の実際

1 仁王小学校における実践

主題名 自由と規律ある行動

(A-1 善悪の判断, 自律, 自由と責任)

教材名 移動教室の夜

(学研「新・みんなの道徳6年」)

(1) 指導の構想

第5学年及び第6学年内容項目は、「自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること」が目標として位置づけられており、これは、自己を高めていくための何物にもとらわれない自由な考えや行動を大切にすることを意味し、それに伴う自律性や責任を自覚させるためのものである。この内容項目から、自由に行動するためには、集団としての規則やルールを守ることが大切であり、そのためには、物事の善悪についての的確に判断し、自ら正しいと信じることに従って主体的に行動することが求められる。また、自己の内面にある欲求を我慢することにこそ人間としてのすばらしさがある。そして、そのような欲求を我慢するためにあるのが規律であり、その規律は、人間を束縛するものではなく、自分自身の正しい判断を養っていくために重要な要素である。

しかし、この時期の子どもたちは、自律的に考え、行動しようとする傾向が強まるものの、一方で自由の捉え違いをして、相手や周りのことを考えず、自分勝手な行動や振る舞いをしてしまうことも多く見られる。また、自分にとって都合のよいことを常に優先させるがあまり、自律的で責任のある行動をする意味やよさを理解できない子どももいる。

このような子どもたちに自分で自律的に判断し、責任を取る行動を取ろうとする態度を養うために、自由と自分勝手との違いや自由だか

らこそできることやそのよさを考えることで、自由な考えや行動のもつ意味などの大切さに気付かせていく。

本教材は、自由を楽しもうとした主人公が友達に迷惑をかけたことを通して、自由と規律について考え直すことでねらいに迫る。移動教室で、規則を守らず自分勝手に行動した主人公が、翌朝友達が体調を崩して倒れたことから、自分の行動を後悔して、規則とルールや自由と責任について考えるというものである。

指導に当たっては、間近に迫る修学旅行を想像させながら、「自分だったらどのような考え方を大事にするか。」「どのような行動をとるか。」など、「なぜ、そのように考えるのか」という根拠も大事にししながら、道徳的実践意欲と態度に迫った授業を展開していく。また、実際にはそうすることが難しいという人間理解にも共感しながら、実感を伴って道徳的価値の理解を深めていく。

【手立て1】

自分自身との関わりでの価値の深まりを促す指導方法の工夫

ア 自分の生活経験とかかわらせながら道徳的諸価値の理解を深める導入

児童が教材に対して考えが深められるかどうかは、これまでの生活経験の差が大きいかと考えられる。児童が教材の中の主人公や主人公を取り巻く登場人物に共感し、考えを深めることが、より活発な話合いにつながると考える。

そこで、導入部分で自分自身の生活経験を振り返る時間をとったり、道徳的価値に対して、現有の価値意識を捉える時間を取ったりすることで児童がより深く教材に浸ることができるのではないかと考えた。

イ 多様な考えを分類・整理する問い返しや板書の位置付け

高学年になるにしたがって扱う教材は、文章が長く、関連価値が複雑であるものが多いと感じる。登場人物の心情を順に追っていくのではなく、実生活や教材から考えられる問題を焦点化し、学級全体で話し合わせながら諸価値の理解を深めていくことが必要であると考えます。

しかし、子どもの発言をただ聞き入れるだけでは、理解させたい道徳的価値にせまることはできないため、中心発問を吟味し、児童の多様な考えを大事にしつつも、問い返しによって、授業のねらいに迫っていくようにする。その際、主人公やその周りにいる登場人物、また、主人公とは相対する立場にいる登場人物の気持ちや考え方などを板書に位置付けたり、教師の子どもと子どもをつなぐ問い返しや別な視点から考えさせる問い返しにより、児童の思考を整理・分類したりするよう努めていく。

ウ 展開後段における道徳的諸様相を養う話し合い活動

授業のどこの段階でも、意図的に教材の主人公と自分自身とを比較させたり、自分に置き換えて考えさせたりすることで、自分自身とのかかわりの中で諸価値の理解を深めていくが、展開後段では、学んだことを生かして、更に自分自身の価値意識を見つめ直す発問を行ったり、新たな問題場面を提示したりすることで、最終的に「何を考え、判断し、行動していくのか」考える時間を設定し、道徳的諸価値の理解をさらに深めていく。

【手立て2】

学習活動に着目した評価の在り方

エ 授業のねらいに応じた児童の見取り (子どもの学びの姿やノートの記述から)

多様な考えを引き出す場面(手立てイと関連させながら)で子どもの発言やノートの記述、しぐさや表情などを見取り、意図的に指名しながら子どもの考えを引き出し、授業の展開につなげていく。

展開後段までの話し合い活動を通して、本時を振り返り、導入での価値の捉えと変わったところや今後生かしていきたい考えなどを記述させる。その際、本時のねらいに対してどうだったか、子どもの記述に対して意図をもって見取る必要がある。

また、本時だけで、学級全員の評価をすることは難しいため、評価する対象児童を決めたり、学びの姿勢を見取り、意図的に発言させたりしながら座席表に記録していく。なお、この座席表は年間通してポートフォリオし、児童の評価と共に教師自身の評価として蓄積していく。

その際、『一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか』『道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか』を授業のねらいと講じた手立てに応じて見取っていく。

子どもたちの学習状況や成長の様子を様々な方法で把握し、それを子どもたちに確かめさせたり、それによって教師の自らの指導を評価したりするとともに、指導方法などの工夫改善に生かしていく指導と評価の一体化を常に考えて実践していく。

(2) 授業の実際

ア 本時のねらい

集団として規則やルールを守ることが大切であることを理解し、規律ある行動をとろうとする態度を養う。

イ 本時の指導に当たって

導入では、本校の行事である全校遠足の活動を通して、集団としての規則やルール、友達とのかかわり方などを想起しながら、間近に迫った修学旅行での規則やルールにどんなものがあるか考えることで教材への理解を深めていく。

展開では、夜中まで起きていることはよくないことであると分かっているながらも、そうしてしまった理由について人間の弱さを見つめながら、友達と話したい欲求やずっと起きている欲求などの理解を図りながら、児童から多様な発言を引き出していく。里香や春美の立場と千葉の立場の両面から考えることで、多面的・多角的に物事を捉えるようにさせる。

終末では、今回の問題点は何か再度、考えさせながら「どんな考え方が大切か」「どう行動していくことがよかったのか」自分自身とのかかわりの中で自分なりの納得解を見出させる。修学旅行での場面を想定させ、教材を通して学んだことを生かしてどのように行動していくか再度、話し合わせ道徳的实践意欲と態度を養っていく。

ウ 本時の展開

	学習活動 (◎中心発問, ○基本発問)	指導上の留意点
導入 7分	1 道徳的価値への関心をもつ。 ○ 間近に迫った修学旅行で、きまりやルールを守る場面にどのようなものがあるでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行の活動を想像させることで、規則やルールを守ることの大切さを捉えさせる。【手立て1-ア】 「なぜ、守らなければならないのか。」を問い、学習の方向性を決める。
規則やルールを守るとはどういうことだろう。		
展開 33分	<p>2 主人公の気持ちや行動について考える。</p> <p>○ 千葉さんの「少し気分が悪いから、私、もう寝たいな。」という言葉聞いた時、「私」はどんなことを考えていたでしょう。</p> <p>○ 千葉さんに「ねむれないわよ。」と言われた時、「私」と「千葉さん」の気持ちはどうだったでしょうか。</p> <p>◎ 千葉さんが倒れた姿を見て、「私」は、どのようなことを考えたでしょう。</p> <p>3 主人公の行動を通して、きまりやルールの意義について話し合う。</p> <p>○ 私たちが、自分中心な考えになり、正しい判断ができないことがあるのはなぜでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「私」が楽しさを優先させて、千葉さんのことを考えていないことを押さえる。 千葉さんのことを心配する思いと、自分のしたいことを優先する思いを分けて板書に位置付ける。 2人の気持ちの違いを板書に位置付ける。 「私」の気持ちが、非日常の特別な状況で高ぶっていることを押さえる。【手立て1-ア】【手立て1-イ】 児童にも「私」の視点で考えられるように体験や経験を想起させる。 「なぜ、後悔しているのでしょうか。」と切り返すことで、後悔した原因を追究していく。 後悔している「私」の理由を明確にさせ、子どもたちの発言を板書に分類することで、多面的に物事を考えさせる。【手立て2-エ】 規則を守ることが大切である子どもたちにとって、規則やルールがなければどのような生活になるのか想像させ、自由と規則のかかわりを考えさせる。 自分が置かれている状況によって、自分の気持ちや考えが弱まってしまうことや周りの状況によっても心のもち方が変わってしまうことにも触れる。
終末 15分	4 学習したことについて振り返る。 ○ この学習を通して、学んだことや新しく考えたこと、これからの生活に生かしていきたいことについて振り返りましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ノートの記述をもとに「どのような気持ちを大切にしていくか」話し合い、他の友達のよさを感じながら、目標に向かって努力し続ける心情を育てていく。【手立て1-ウ】【手立て2-オ】

(3) 授業の概要と考察

【手立て1】

自分自身との関わりでの価値の深まりを促す指導方法の工夫

ア 自分の生活経験と教材とを関わらせながら道徳的諸価値の理解を深める導入

授業者は、事前に子どもたちの修学旅行での楽しみを把握しておいた。授業の導入で、宿での過ごし方についての発言が出ることを予想した上で、以下のように展開した。

T：修学旅行では宿の部屋での時間が楽しみという人も多かったね。何をしたいのかな。

C1：友達と話したり、遊んだりしたい。

C2：友達と一緒に泊まるのが楽しみだから何でも楽しいと思う。

T：なるほど。楽しみな気持ちが伝わってきたよ。では逆に心配なことはないかな。

C3：寝るのが遅くならないか心配です。

C4：他の人に迷惑にならないようにしないといけない。

C5：寝なきゃいけないけれど、起きていたい気持ちもあります。

T：そうだよね。せっかくの修学旅行だから友達ともたくさんお話したいよね。今日は修学旅行の夜についてのお話です。C5さんも言っていたように、きまりやルールを守るためにはどんな気持ちが大切なのか教材を通してみんな考えていきましょう。

また、展開の部分では、「私」が楽しさを優先させて、千葉さんのことを考えられていない場面を「私」と「千葉」の立場から捉えさせることで、自分の生活経験とかかわらせながら考えることができるようにした。

T：千葉さんに「ねむれないわよ。」と言われた時、「私」はどんな気持ちだったでしょう。

C6：「私」は、行く前から宿の夜を楽しみにしていたから、千葉さんに対してイライラしていたと思う。

C7：気を遣いながら話していた部分もあるし、「別にいいでしょ」という気持ちもあったと思う。

C8：千葉さんも約束していたのに「裏切った」という気持ちもあるんじゃないかな。

C9：もっと楽しみたいと思う「私」もいたと思う。とても楽しみだったし。でも私だったら、千葉さんが具合悪いのでなるべく静かにすると思う。

T：C9さんも宿が楽しみだったと言っていたね。みんなだったら、どうするのかな。

C10：私も静かにすると思う。でも話をしたいから本当に小さな声でするかも。

～中略～

C11：千葉さんも楽しみにしていた修学旅行で、「怒った声で」と書いてあるからくやし気持ちいと休みたい気持ちもあったと思う。

T：くやしい気持ちってどういうこと。

C11：自分が千葉さんだったら、「何でこんな日に」って思う。みんなは、楽しいのに自分だけ話に入れない気持ちがあるので。

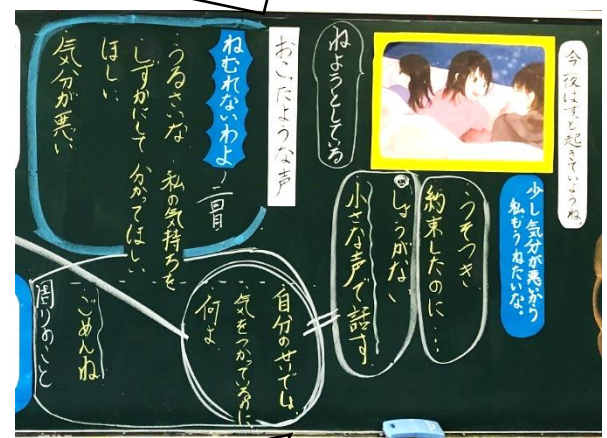
T：みんなには、C11さんの言っていること分かるかな。千葉さんは、どんな気持ちで「ねむれないわよ」と言ったのでしょうか。

～中略～

イ 多様な考えを分類・整理する問い返しや板書の位置付け

展開部分では、「私」と「千葉」のかかわりを視覚的に分かりやすくするために2つの視点で板書した。子どもの発言をもとに、板書することを意識し、価値の捉えを深めようとした。

「千葉さん」からの視点で子どもの発言をまとめる。



「私」からの視点で子どもの発言をまとめる。

ウ 展開後段の段階における道徳的諸様相を養う話し合い活動

教材を通して学んだことや、友達との話し合いの中で得た価値意識をさらに自分事として捉えさせていく。日常生活の場面でも実践への身構えをもてるよう、学び取った諸価値を生かしながら、他者と話し合ったり、ノートに記述したりする活動、相手の考えを聞く活動等を行っていく。

～ノート記述後～

T: 学んだことや生かしていきたいことを発表しましょう。

C12: ぼくは、つい楽しさを優先してしまうけれど、相手の事や周りの人のことを考えて、何をしなければならないのか考えて行動していきたい。

C13: 自分の事だけでなく、周りの人のことも考えて行動することが大切だと分かった。よい行動は何か自分で判断することも大切だと感じた。修学旅行に生かしていきたいです。

～中略～

T: 今、C13さんが「修学旅行にも」という振り返りを話していましたが、修学旅行で自分自身を優先してしまいそうな場面にどんなことがありますか。

C14: バスに乗る時に楽しくてうるさくなることもあると思います。

T: C14さんからバスに乗る時が挙げられましたが、みなさんはその場面をどう考えますか。

C15: ゆっくり休みたい人もいるので、その人のことも考えた行動が必要だと思います。

C16: 楽しむときは楽しむ、静かにする時は静かにするというメリハリが大事だと思います。

その後も「買い物の場面」「食事の場面」「見学場所での場面」などが出され、授業の学びを生かして発言する子どもの姿が見られた。

考察

子どもの生活経験と教材をかかわらせるために、子どもにとって身近な題材を選択したり、必要感をもたせるような導入や問い返しをしたりすることが必要であると感じた。

子どもの発言を掘り下げるために、「どうしてそう考えたのですか。」「そのような経験がありますか。」「〇〇さんの考えについてどう考えますか」など、根拠を問う問い返しを準備しておくことも、生活経験を語る上で必要な要素であると考えた。

【手立て2】

学習活動に着目した評価の在り方

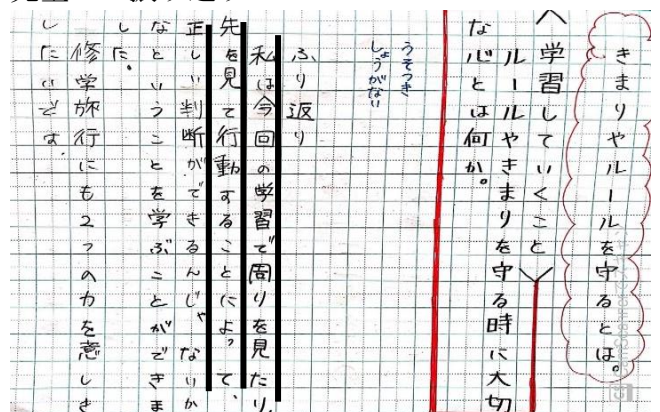
エ 授業のねらいに応じた児童の見取り

(ノートの記述)

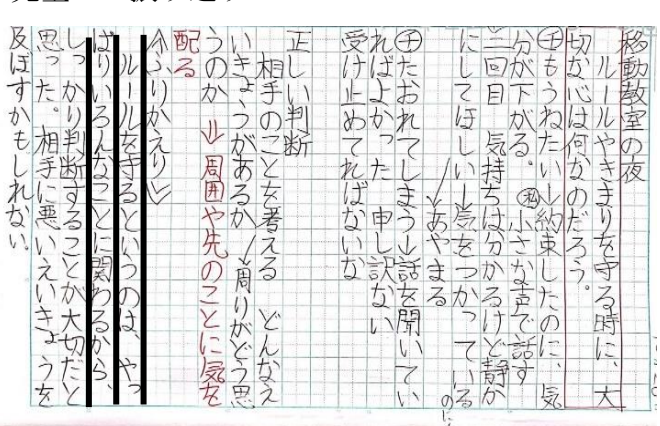
学習活動において、「多面的・多角的な見方に発展しているか」「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか」といった点を重視する。その際、ねらいに対してどのような記述が見られているかについて特に大事にしていく必要がある。

【多面的・多角的な見方に発展している記述】

児童Aの振り返り



児童Bの振り返り



前頁2名の児童は、授業の中で、善悪の判断について、なかなか考えがもてなかった児童であり、友達の発言を聞いて考え直したり、メモをしたりすることで、自分の考えを構築することができた。

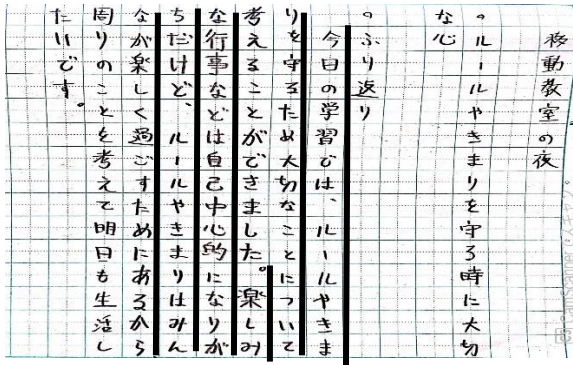
振り返りでは、物事の善悪を的確に判断するための多様な考えを書いていたことから、授業を通して、善悪の判断について、様々な視点から考えられるようになったと感じる。

【道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めている記述】

児童Cの振り返り



児童Dの振り返り



上記2名の児童は、授業の中でも、修学旅行での生活を想定しながら発言していた。展開後段の場面での話し合い活動では、予想される修学旅行の場面を自分事として考えることができ、振り返りでは、学んだことを生かしながら、善悪の判断について自分自身とかかわらせながら記述することができた。

(4) 成果と課題

ア 成果

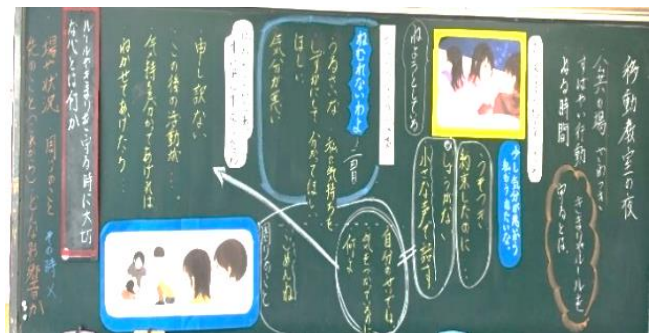
- よりよい行動とは分かっているながらも、それを達成することができない気持ち（人間理解）を深めた上で、「なぜ、そう判断したのか。」「そう判断した根拠は何か。」を他者との語り合いの中で明らかにすることで、より明確に自分なりの考えをもち、判断するときの心の在り方として捉えることができた。
- 終末の段階に時間を多くとることで、葛藤が予想される場面でも、対応できる知識や技能を高めることができたと感じる。子ども達にとって身近である課題を提示することで、より道徳的実践意欲と態度が養われていくと感じた。

イ 課題

- 子どもの発言をねらいに応じて聞き分け、意図的に分類・整理しながら板書にまとめることに難しさを感じた。子どもたちからどのような考えが出されるか想定しきれていなかったことが原因として挙げられる。それは、授業をつくる上での、価値の分析に起因するものである。教師自身が子どもに何を捉えさせたいのか明確にしていくことが重要であると感じた。
- 評価にかかわって、今後、子どもの発言や学びの様子、ノートの記事だけでは、多様な評価の仕方を考えていく必要がある。

授業を行う際に、「どこで評価するのか」「何を見取るのか」「どのように見取るのか」を明確にし、子どもの姿を評価していく必要がある。

また、それと同時に、自分自身の授業に対する評価の仕方や子どもの学びをもとにした指導の改善を推進していく必要がある。



【本時の板書】

1 見前小学校における実践

主題名 本当の友情
(B 友情・信頼)
教材名 「ロレンゾの友達」
(学研「特別の教科 道徳6年」)

(1) 指導の構想

本主題は「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳」の「B 主として人とのかかわりに関すること」における第5学年及び第6学年の「友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。」を内容項目の観点とし、道徳的判断力の育成を目指した内容となっている。

本学級は、5年生の頃から、明確な解答がない問題や問いについて考えることを苦手とする児童が多く見られる。特に道徳の授業においては、「他人の気持ちを考えることが苦手」「自分の気持ちをみんなに発表するのが恥ずかしい」「自分の気持ちを言葉に表せない」などといった課題をアンケートで回答する児童も多かった。

6年生として様々な課題に向き合う中で、文章に表したり発言したりすることのよさや楽しさを徐々に感じ始めてきているが、まだ、他者の気持ちを考えるということに苦手意識を感じている児童が多い。

そこで、本教材では、「友情・信頼」という内容項目を観点として、友達のために自分であればどのような判断をするか、どのような立場をとるかについて話し合いながら、道徳的判断力を育む時間とするために、次のような手立てを講じていきたい。

【手立て1】

自分自身との関わりでの価値の深まりを促す指導方法の工夫

ア 主題について考えやすい環境を整える工夫 (事前アンケートの活用)

事前アンケートを用いて自分の考えを思い

のままに表出させ、今の自分の気持ちや考えがどういったものなのか、どのような立場でその物事を考えているのか、自己を見つめる活動を通して自覚させる。

イ 議論することを重点化した授業展開の工夫

昨年度より行っている自己研修において、導入の場面に重点を置いた授業ほど、子どもたちに本当に話し合わせたいことが焦点化されなかったり、時間が足りず議論が深まらなかったりするという課題を抱えている。

そこで、今年度は、前述した事前アンケートを導入の場面に用い、自分との関わりで考えることを促すことで、展開の場面の時間を十分に確保し、議論に重点を置いた授業展開を構想とした。

【手立て2】

学習活動に着目した評価の在り方

ウ 話し合いの方法を統一することにより表れる積極性を見取り

話し合いの方法を次のように統一し、児童がより話しやすい環境の中で自己を語るができるようにした。

- ①ホワイトボードを用いて視覚化する。
- ②班ごとに話し合う。
- ③司会を立て、互いの考えを整理・分類する。
- ④班での話し合いの内容をまとめる。

児童が発表する内容は、考えをまとめた結果だけではなく、児童の間でどのような議論になったのか話し合いの過程も発表させ、班の話し合いの中で出た発言や、話し合いに対する積極的な態度も見取っていくこととした。

エ 自分自身の問題意識へと返す振り返り

(道徳ノートの活用)

授業の最後には、本時で学習したことを道徳ノートに記し、蓄積していく。そして、児童が記述した内容の量的な高まりと、授業前後の変容に係る質的な高まりに着目して見取っていく。

(2) 授業の実際

ア 本時のねらい

ロレンゾを心配する3人の友達の考えを話し合い、本当の友達とはどのような友達かを考え、信頼し合える人間関係を築いていこうとする心情を育てる。

イ 本時の展開

階	学 習 活 動	◎中心発問 ○基本発問	指導上の留意点・研究に関わって(○)	備考
導 入 10 分 と ら え る	(1)アンケートの結果を交流する。 (2)課題を設定する。	◎あなたにとって本当の友達とはどんな人のことですか。 ・困ったとき助けてくれる。 ・相手を思いやれる人。	○アンケートを通して自己を見つめる。	アン ケ ー ト 結 果
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 本当の友達とは自分にとってどのような人のことか考えよう。 </div>			
展 開 25 分 深 め る	(3)資料ロレンゾの友達を読んで話し合う。 (4)それぞれの友達としての行動を話し合う。(グループ) (5)アンケートに戻り自分の考えについて確認する。(全体)	○アンドレ、サバイユ、ニコライの3人の性格や行動をまとめましょう。 ◎あなたがロレンゾなら、3人のうち誰が一番良い友達と言えますか。 ○自分のアンケートを見返して、授業前と授業後の自分の考えや思いの変化を考えましょう。	○十分に内容を押さえた上で3人全員がロレンゾを大事に思っていることを共通理解とする。 ○グループ学習に入る前に自分の考えを整理する時間を十分に確保する。 (手立て2 ノート) ○決まったことの発表に加えて、班の中でなぜそのような方向性になったかを話し、他人の意見と自分の考えをすり合わせて議論できるようにする。 (手立て1 他人の意見を聞いて自己の考えを深める。) (手立て2 活動の様子)	教材 ボ ー ド 活 用 鞆 ア ン ケ ー ト
終 末 10 分 見 つ め る	(6)本当の友達とはどのような人なのか考える。	○今日の学習から、本当の友達とは自分にとってどのような人のことかを考えたことをノートに書きましょう。 ・「本当に友達のことを思う」とは、どんな状況にあっても寄り添えることだと思う。 ・最後まで信頼してあげることが本当の友達を思うことだと思う。	○自分の経験と合わせて記述できているか。 (手立て2 ノート)	道 徳 ノ ー ト

(3) 授業の概要と考察

【手立て1】

自分自身との関わりでの価値の深まりを
促す指導方法の工夫

ア 主題について考えやすい環境を整える工夫 (事前アンケートの活用)

事前アンケートでは、以下の内容について
回答させた。

- Q：あなたにとって「友達」とはどのような
存在ですか？
- A：いい人・仲間・慰めてくれる・大切・
話し相手・分からないことを教えてくれ
る・自分を明るくしてくれる 等
- Q：「いい友達」とはどんな友達のことでし
ょうか？
- A：隠し事をしないで本音を言い合える・
助け合える・相談に乗ってくれる・
仲間外れにしない 等

考察

事前アンケートの回答の中には、「自分の話を
聞いてくれる。」や「一緒にトイレに付き添って
くれる。」等といった自分にとって都合のいい関
係を挙げている児童も数名おり、この捉えが、議
論にも影響した。事前アンケートの結果を、議論
を通した価値理解につなげていくためにも、教
師自身が「いい友達」や「本当の友達」といった
言葉のそれぞれの意味や定義を、しっかりと吟
味しておく必要があった。



【↑事前アンケートは、一人一人に声をかけな
がら返却】

イ 議論することを重点化した授業展開の工夫

導入の場面での事前アンケート結果の活用
は、教材及び主題への導入にも有効と考えた。
なおかつ、短時間で自己を見つめる動機付け
を図ることを可能にし、展開場面の議論に時
間を多く確保することができるであろうと考
え、時間配分や指名構想にも十分に考慮した。
また、本教材は文章量が多く、難易語句も多
いため、授業時間とは別に、教材文を読む時
間を設定し、内容をできるだけ把握した上で本
時に入るようにした。

考察

事前アンケートの活用によって、同様のテー
マである教材を捉え直そうとする意識や、主題
に対する自分との関わりを考えようとする意識
が高まったと言える。また、教材文の事前読み
によって、登場人物の関係性や場面展開の把握
ができており、それらを踏まえた議論を行うこ
とができていた。これらのことから、手立ては、展
開の場面での道徳的価値に迫る議論を重点化に
大変効果的であったと言える。

しかし、教材文は十分に把握してはいたもの
の、登場人物3人の友人が、「3人ともロレンゾ
を思って発言しているのだ(3人なりの友情論)」
ということを確認していなかったため、「自分に
とって一番都合のいい友達」という立場で考え
を貫いてしまった児童も多くなってしまった。
先述の通り、「いい友達」と「本当の友達」の授
業者の捉えが曖昧だったことに加え、議論の方
向性が、考えをまとめることに向いたことが原
因と考える。グループの考えをまとめるために、
自分の考えを譲ったり、互いに折り合いをつけ
たりする姿が見られた。

本来は、議論を通して、多様な考えに触れ、自
分の考えや価値理解を深めることがねらいであ
る。今後は、議論の際に生まれる児童の意識を分
析し、何をどのように話し合わせるか、十分に吟
味した上で実施していきたい。



【↑司会を中心に、考えを出し合いまとめようと、議論する子供たち】

【手立て2】

学習活動に着目した評価の在り方

ア 話し合いの方法を統一することにより表れる積極性を見取り

話し合いの方法を次の通り統一し、その話し合いの中での発言や態度を見取る。

- ①ホワイトボードを用いて視覚化する。
- ②班ごとに話し合う。
- ③司会を立て、互いの考えを整理・分類する。
- ④班での話し合いの内容をまとめる。

考察

道徳の時間の話し合いの方法を統一し、年間を通して継続したことにより、方法が定着し、心が安定した状態で話し合いに臨むことができていた。児童が自分の意見を話しやすい環境づくりをすることができたと言える。また、活発に意見を交流する中で、自分の考えを明確にしている児童が多く見られ、その主体的な態度を見取することもできた。

しかし、本時の議論の場面では、最後まで「この人こそ一番正しい」と固執してしまい、自分の意見を友達に押し付けようとする児童も数名見られた。また、友達の意見を聞いて自分の考えを深めたり、友達を納得させるように話し合ったりするといった議論にはなっていない班も見られた。

このことから、議論の場面では、話し合いの軸を、それぞれの意見のよさを受け入れられるように設定しなくてはならないと実感した。本時でいえば、「どのような友達が本当の友達と言えるのか」ということを話し合いの軸とすべきであった。

評価の在り方としては、児童の心の在り方は多様なものであるとしつつも、どれだけ話し合いの軸に共感しているのかを、適切に見取れるように、教師の介入や観察を工夫する必要がある。



【↑議論する子供たちの様子を観察しながら必要に応じて話し合いの方向付けや価値づけを行う】



【↑議論の結果を児童と共に位置付けながら、立場の明確化と共有化を促す板書】

イ 自分自身への問題意識へと返す振り返り
(道徳ノートを活用)

授業の最後には、本時で学習を通して深めた考えを道徳ノートに記し、児童が記述した内容の量的な高まりと、授業前と授業後の変容といった質的な高まりに着目して見取っていく。

考察

これまで振り返りの場面では、自分自身の心の変容をしっかりと捉えた記述や発表をさせることができていなかったのが課題であった。そこで本時では、事前アンケート用紙の下欄に、授業を振り返っての感想を書く場所を設けた。

シート構成の工夫によって、自分の考えの自覚化を図ることができ、視覚的に自分の考えを比較できることから、自分自身の心の変容を捉えることができる。子どもの記述を分析してみると、授業を通して考えたこと、これまでの自分の考えを捉え直したこと、他者の考えから学んだことなどが記述されており、授業後の質的な高まりを自分で実感しながら振り返っていることが伺えた。

また、その記述量にも高まりがみられた。十分な記述量によって、子ども一人一人の深まった価値理解や実現しようとする心情を記述から捉えることができるようになった。決して記述量で評価するのではなく、記述の中から変容や心情を捉えるよう留意しているが、その見取りの妥当性については課題を感じている。今後、個人としても校内としても研究を深める必要があると考える。



【↑振り返りを記述する子どもたち】

【↓事前アンケート用紙に記入した振り返り】

アンケート
名前: _____

Q1 あなたにとって友達とはどういう存在ですか？

良い人、仲間

Q2 いい友達とはどんな友達のことでしょうか？できるだけ詳しく書いてください。

やさしい親切的、信ろいできる、しつもんが良い

ロレンソの友達

☆授業前と授業後の自分の考えについて書きましょう。

本当の友達とは、友達のことについて考え、正しい道へ行くために且か言や協力をする人だと思っています。犯罪をおかしたりさせたり大変なことがつらいことがあったらアドバイスをあげた言葉でかまた新しい人生へと導く人が本当の友達だと思いました。

アンケート
名前: _____

Q1 あなたにとって友達とはどういう存在ですか？

やさしくて、たのしい

Q2 いい友達とはどんな友達のことでしょうか？できるだけ詳しく書いてください。

話が聞ける人

ロレンソの友達

☆授業前と授業後の自分の考えについて書きましょう。

授業前だと、なんでもしてくれて、やさしいのが本当の友達と認識して、授業をして、本当の友達とは、なんでも話が聞けて、~~その時~~その時でみんなでおこる、てゆうかみんなのたしてくれるのが本当の友達とわりました。

(4) 成果と課題

ア 成果

- ・導入で、事前アンケートを用いて自分の考えを明確にしたり、友達の考えを聞き合ったりしたことで、自己を見つめる動機付けを図ることができた。アンケート記入という活動は、児童の本音を引き出すことにも有効であった。
- ・振り返りの際も、事前アンケートでの自分の考えと比較できるシートの構成としたため、授業後の質的な高まりを、自分で実感しながら振り返りを記述することができた。また、その記述には、価値に対する思いが膨らんだことから、量的な高まりも見られた。
- ・教材文の内容を把握することを事前に行うことで、本時の学習活動を議論の場面に焦点化することができ、十分な議論の時間を確保できるとともに、そのことにより児童が議論に充足感を味わうことができていた。
- ・統一した話し合い方法で議論を継続していることから、回を重ねるごとに活発な意見交流が見られるようになった。個の考えからグループ、さらには全体へと考えの交流を広げることで、多様な考えに触れながら、道徳的価値に迫ることができたと言える。

イ 課題

- ・全員を共通の土台に乗せることなく話し合い活動を展開したことから、議論がねらいに迫れなかった。何をどのように話し合わせるか吟味する必要がある。

- ・「本当の友達」と「いい友達」の混在が、互いの考えを共感し合えないという状況を招いた。提示する言葉は、明確に定義付けることが重要であると感じた。例えば、「お金をくれるからいい友達だ」という考えをもっていた児童に対して、「お金をくれるほど自分を思ってくれる優しさをもっているからいい友達なのだ」ということに気付くことができるような、議論中への介入（支援）が必要であった。
- ・話し合いの場面では、活発な意見交流をすることができた反面、なかなか道徳的価値に迫ることができなかった。その理由として、話し合いの軸を選択肢が決められているものにしてしまったことが挙げられる。「3人中で誰が一番ロレンゾにとっていい友達か」という内容で話し合うと、それぞれの人物のよさをぶつけ合う話し合いとなってしまう、他者の考えを共感的に受け止めることができない児童は「自分の意見で相手を納得させよう」という心が働いてしまった。より道徳的価値に迫る話し合いとするには、「本当の友達とはどのような存在か」について話し合い、それぞれの意見から考えを深めるような議論の場面にするべきであった。
- ・振り返りを書く際に、必ず事前アンケート（授業前の自分の考え）に立ち返ることを意図的に指示すれば、児童が授業前後の心の変容を、より一層自覚できると考える。



【←本時板書】

3 上田中学校における実践

主題名 「住みよい社会」
教材名 ごみ箱をもっと増やして
「新しい道徳」東京書籍
内容項目 C(10) 遵法精神、公德心

(1) 指導の構想

【手立て1】

自分自身との関わりでの価値の深まりを
促す指導方法の工夫

ア 導入における三段構成

- (ア) 導入序盤では、単元テーマに関して、自分自身が感じているイメージを想起させた上で、「単元の問い」へとつなげる。
- (イ) 導入中盤では、身の回りにある「ごみ箱」について、どんなところにあるか、どうしてあるのか、ないと困るのかどうか、ごみ箱はもっと増えた方が良いのか等、考えさせ課題化する。日常生活において身近な存在である「ごみ箱」に焦点を当て、それを増やすべきか否かについて問題意識を高めることができるよう、教材と価値を結びつけた問いかけをする。
- (ウ) 導入終盤では、今の自分の考えを、理由とともに明らかにさせるため、ネームプレートを活用する。

イ 単元テーマとの関係性を探る

- (ア) 投書に対する3つの主張を確認しながらどう考えるか、グループトークや全体での議論を通して語り合いながら、考えを深めさせる。その際、Qwordを用いて、仲間の発言の根拠に着目し、訊くように聞いたり、話したりする。

- (イ) ごみ箱の数と「心豊かな社会」との関係を探るため、補助発問と相関図を用いて、核心を焦点化した板書構造で価値の深まりを促す。

【手立て2】

学習活動に着目した評価の在り方

ア 観察による評価

ネームプレートの活用を通して、より生徒一人一人の考えとその根拠の把握に努めるとともに、語り合い後の生徒の変容や価値の深まりを発言の様子（観察）を通して評価する。

イ 言語分析による評価（終末時と翌日）

授業の終末で記述する本時の振り返り（一言書き留め）に加え、翌朝の振り返り活動での記載を「ルーブリック表」に基づいて評価する。

(2) 授業の実際



ア 本時のねらい

日本のごみ箱を増やすべきか否かを語り合うことを通して、公德心についての理解を深め、心豊かな社会の実現のために努める態度を育てる。

イ 展開

本教材は、ごみ箱の設置に関する新聞への投

稿とそれに対する3つの意見で構成されている。投稿者が短期留学で米国に行った際に感じた街の状況から、日本にもごみ箱をもっと増やした方がよいのではないかという意見に対し、観光名所や公園には設置してほしい、ごみ箱の完全撤去を望む、環境を守るために持ち帰ろう、という意見が寄せられた。そこで、投稿者の意見を受け、自分ならどうするか、考えを明らかにさせた上で3つの意見に触れた。「ごみ箱はもっと増えた方が良いのか」を中心発問として問題意識を高め、語り合う中で、心豊かな社会との関係性を探った。日常生活で身近なごみ箱を通して考えたことを、次時は地域社会へと視野を広げ、心豊かな社会について引き続き考えていく終末とした。

〈5頁：展開案参照〉

(3) 授業の概要と考察

ア 【手立て1】

「自分自身との関わりでの価値の深まりを促す指導方法の工夫」について

(ア) 概要

① 単元テーマについて

〈6頁：単元構想図参照〉

② 授業を組み立てる材料BOX

～導入編より～

導入	問題意識をもたせる時間
A	オリエンテーションを生かした方向づけ
B	経験の想起
C	価値に対する揺さぶり
D	教材に対する情報の補充
E	教材と価値を結び付けた問いかけ →教材に関わる内容を提示しながら、 テーマに迫る問いかけをして問題意識をもたせる。
F	初発の感想を基に話合いたい問いづくり

③ 授業を組み立てる材料BOX

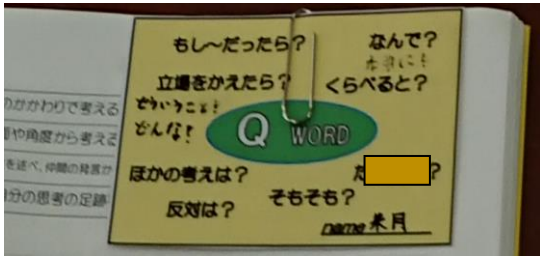
～話合い編より～

話合い	相互の考えを深める話合い
A	全体での議論
B	ペアトーク
C	グループトーク
D	哲学対話の活用
E	ネームプレート等の活用 →自分の立場を明確に示して、話合いを行う。全員が全員の立場を視覚的にとらえることができるため、計画的な指名が可能になる。判断の根拠に着目した話合いが重要となる。
F	役割演技
G	ディベート的手法の活用



④ Qwordの活用

～互いに問い合うことで考えを深める～



⑤ 補助発問と相関図で「公德心」に迫る



ごみ箱を増やすとどうなるのか？ 1番良くないのは？ (多くてきたない!) 1番良いのは？ (少なくてきれい!) 1番「心豊かな社会」はどれ？ どうすれば、そうなるの？ そもそも、ごみ箱を増やすこと？ 減らすことなの？

⑥ 授業を組み立てる材料BOX

～板書編より～

板書	思考を深める手がかりとなる板書
A	時系列の板書
B	対比・構造的な板書
C	核心を焦点化した板書 →中央にテーマを掲げたり、左右での意識の変容を明確にしたり、左右から異なる人物や場面を追いかけて、中央にねらいとする価値が来たりする形式。一目で核心部分が浮き立つ板書。
D	付箋やボードを活用した板書

(イ) 考察

- ・導入における三段構成は効果的であった。パッケージ型ユニットの機能を活かし、単元テーマに関して、今自分自身がどのように関わっているか、また、どのような問いのもとで本単元を考えていくのかが明確にとらえられたと考える。
- ・自分の考えに加えて、投書に対する3つの主張、仲間とのグループトークを通して、より自分自身との関わりで考えることができた。その際、年間を通じて活用している「Qwordカード」により、さらに語り合いを深めることができた。
- ・ごみ箱の数に関する深い語り合いの後、「心豊かな社会」との関係を探る展開終盤では、本時のねらいである公德心に迫ることが不十分であった。「ごみ箱が少ない方がきれいである」、「ごみのポイ捨てがあるようでは心豊かな社会に近づくことができない」、「ごみは各自で持ち帰った方がいい」、「分かっているけどなぜできないのか」。教師側の効果的なファシリテートにより、生徒たちが自分自身との関わりの中で、公德心の中にある自分の弱さと向き合う場面が必要不可欠であったと考える。

イ 【手立て2】

「学習活動に着目した評価の在り方」

について

(ア) 概要

(例) 道徳科1単位時間評価のための
ルーブリックファイルより

A1 (自 関)	道徳的価値のもつ意義を理解(自覚)した上で、自分を見つめる中で課題を意識したり、実際の生活場面でどうありたいかを考えたりして、記述している。 「〇〇できていないことを、自分の今後のために改善し、主人公のように少しずつ努力したい」
----------------	---

A1 (自 関)	「自分の学級では□□なので、さらに伸ば せるように◇◇したい」
A2 (面 角)	道徳的価値のもつ意義を理解した(自覚) 上で、自分と違う考え方や感じ方を理解し ようとするなど、広い視野から考えて、記 述している。 「自分をはじめ○○と思っていたが、◇◇ さんが発言した□□という意見に共感し た」 「○○が大切だと思っているが、□□とい う状況における判断の難しさを感じ、その 両立のためには●●ということも視野に入 れるべきだと考えた」
B	道徳的価値の良さを実感したり、その理解 を深めたりしている。(変容、広がり、深 まり) 「○○の大切さについて改めて考えた」 「○○とは◆◆と思っていたけど、今日の 学習で□□ということもあると学んだ」
C	教材中の人物の姿について触れているが、 その価値を自分自身のこととしてとらえた 記述が見られない。 「主人公はあのような行動をとってはいけ なかった」 「主人公はすごいと思う」
D	道徳的価値に触れた記述がない。考えをも つことや意見を言うことの大切さ等につ いて(感想など)書いている。 「みんなの考えを知れて良かった」 「今日は発言できなかったので、次回頑張 りたい」

〈毎時間のループリックメモより〉

1 / ()

教材名： []

内容項目： []

No.	氏名	記述 (A1 ~D)	授業 (○)	メモ
1	○○	B		
2	○○	A1		
3	○○	C	○	発言○、グループ トークで仲間の考 えをつなげた。
4	○○	A2	○	色々な発言に共 感。Qword 積極的 な活用あり。
5	○○	B		

(イ) 考察

- ・本教材は、投書を含めて様々な意見や情報がある中で、賛成か反対かという自分の立場だけでなく根拠をもって考えを深め、その変容を見取っていく上で、ネームプレートの活用は授業中の観察評価において効果的であった。
- ・年間を通じて活用している「ループリック表」に照らし合わせた言語分析による評価は、学習活動中に見取ることが不十分だった個々の変容や、本時のねらいをふまえて今後どのように努めていこうと考えているか等について、記述別の根拠を軸に、評価をすることができ、効果的であると考えられる。

(4) 成果と課題

ア 成果

- ・自分自身との関わりの中で思考し続けたり、語り合いを促したりする本実践の工夫は、単元テーマ(3時間配当)を考えていく上できっかけとなる一時間となった。
- ・本時が特別ではなく、年間を通じて活用している「授業を組み立てる材料BOX」や「ループリック表」の必要性を実感したと同時に、単元テーマに迫る残り2時間の実践計画を見直すことができた。

イ 課題

- ・自分自身との関わりの中で、本時のねらいに迫るとともに、その発言をつなぐ教師の指導技術(ファシリテート力)に磨きをかけることである。生徒が抱く「それが正しいことだと分かっているけれど、できない弱さ」等にどのような発問で迫り、つなぐかを十分に吟味することが不可欠であった。
- ・本単元が、連結型ユニット構成であることも踏まえ、より本時のねらいとする価値の理解を十分に行うことが不可欠であった。

<本時の展開>

段階	学習活動	指導上の留意点 ◆教材・教具等
導入 15分	1 単元テーマに関して想起する。	1 今、個々が感じている「心豊かな社会」へのイメージを想起させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">単元の問い：心豊かな社会を築くために大切な「心」とは何だろう？</div>
	2 教材について知る。	2-1 身の回りにある「ゴミ箱」について、どんなところにあるか、どうしてあるのか、ないと困るのかどうか、ゴミ箱はもっと増えた方が良いのか、考えさせ課題化する。 ◆ 写真 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">ゴミ箱はもっと増えた方が良いのだろうか</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>【つかむ】日常生活において身近な存在である「ごみ箱」に焦点を当て、それを増やすべきか否かについて問題意識を高める。</p> <p>(導入 F「教材と価値を結びつけた問いかけ」)</p> </div> 2-2 今の自分の考えを、理由とともに明らかにさせる。 (話し合い E「ネームプレート等の活用」)
展開 30分	3 教材を読んで話し合う。	3-1 投書に対する3つの主張を確認しながらどう考えるか、語り合いながら、考えを深めさせる。 (話し合い C「グループトーク」→A「全体での議論」) <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>【つたえる】Qwordを用いて、仲間の発言の根拠に着目し、訊くように聞いたり、話したりする。</p> </div> 3-2 ごみ箱の数と「心豊かな社会」との関係を探る。 (板書 C「核心を焦点化した板書」)
終末 5分	4 振り返りをする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>【つなげる】学習を通して考えた、心豊かな社会を築くために大切な「心」はどんなことか、一言で記述させる。</p> </div> 4 けやき学習との関連から、次時の見通しをもつ。 (終末 A「教師の説話」)

【ユニット⑤ 「心豊かな社会」(3時間配当) ~心豊かな社会を築くために大切な「心」とは何だろうか?~】
中学校1年生の発達段階を踏まえ、日常生活で身近な「ごみ」に焦点を当て、「社会」について考えをきっかけにするとともに、一人一人がより良い社会を目指し構成員であることの自覚をより芽生えさせたい。
また、「公」の場における諸問題や出来事に、一人一人が当事者として関心をもち、自分事として捉える契機としたい。

第1 「日本のごみ箱」設置から 考えよう

~日本のごみ箱はどうあれば良い?~



主題名 住みよい社会を目指して
内容項目 C(10)遵法精神, 公德心
教材 「ゴミ箱をもっと増やして」
(東京書籍)

米国へ短期留学を経験したという投稿者の「ゴミ箱をもっと増やした方が良い」という投書に対する3つの意見から、「ゴミ箱はもっと増えた方が良いのか」について自分事として考えさせる。ゴミの問題を通して、一人一人が社会全体に目を向け、自分の在り方を見つめ直す契機としたい。また、誰もが住みよい社会を目指して、自分がどうあるべきかについて迫りたい。

第2 「さんさ踊り」翌日の 早朝清掃から考えよう

~プライドをもってごみを拾うとは?~



主題名 郷土への思い
内容項目 C(16)郷土の伝統と
文化の尊重, 郷土を愛する態度
教材 「ぼくらのプライド」
(ふるさといわての心)

前時の学習から、自分たちが住む“地域”の住みややすさについて想起する。全国的にも有名な「さんさ踊り」開催地域に属しながらも、祭りに批判的な主人公が、その帰り道、次第に地域へ寄せる想いが膨らんでいく心情を捉えさせた。翌日の早朝清掃で、「ぼくらのプライド…」と口にしながらゴミを拾う主人公の心の中に浮かんだ思いに気付かせたい。

第3 「新幹線清掃員」の仕事から 考えよう

~新たなプライドをもって働くとは?~



主題名 誇りをもって働く
内容項目 C(13)勤労
教材 「新しいプライド」
(東京書籍)

前時の学習から、社会貢献を果たしている職業について想起する。車両清掃、「ゴミ出し」などをわずか7分で行う「新幹線清掃員」の仕事を通じて、やりがいと誇りをもって働くことについて考えられる。「そんな仕事…」、「清掃員であることは抱えられないように…」と言われ恥ずかしさを抱えていた主人公が、新しいプライドを得て仕事に邁進することができたのはなぜかについて迫りたい。

4 北松園中学校における実践

主題名	いのちを考える D(19) 命の尊さ
教材名	決断！骨髄バンク移植第一号 東京書籍「新しい道徳1年」

(1) 指導の構想

本時の授業は、内容項目D(19)「生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること」に基づいて指導するものである。人は生命の連続性の中で生を受ける。幼い時期は家族や地域の方に守られ生活していくが、生活の知恵を受ける中で、自然と自分の生命を守る習慣を付けていくことになる。しかし、中学生の時期は自我意識が強くなり、自分一人で何事も解決できないことも増える中で、自分や他の者の生命を粗末に考える言動をする者もいる。このような時期だからこそ、生命がかけがえのないものであることや、生命の連続性に気付くことが重要である。

本教材はユニット教材となっており、前時の「いのちってなんだろう」からつながりがある教材である。テレビ番組「プロジェクトX」を教材化したものである。骨髄移植によって白血病患者の命を救うために、日本でも骨髄バンクの組織を作り出そうとボランティアの会員たちが奮闘する中、一人のドナー登録者が血液の適合を告げられる。手術が近づくにつれ恐怖と使命感の間で心は揺れたが、主人公(以下・田中さん)は恐怖を乗り越え、骨髄の提供を決断。日本初の骨髄バンク登録者による移植手術は成功する。1991年、ついに日本骨髄バンクが誕生し、その数年後、全国集会

で出会った患者とドナーは固い握手をして抱き合う。田中さんの揺れる心に迫ることで、自他の「いのち」を大切にすることへの直や意見や価値観を出すことができる教材である。

【手だて1】

自己との関わりでの価値の深まりを促す指導方法の工夫

ア 具体的なイメージ化を図る主発問

この授業の主発問の部分では、骨髄の提供をしようと決めた主人公の気持ちを自分に置き換えて考え、具体的にイメージさせたい。

その際、前の発問の葛藤場面から田中さんが気持ちを新たにし、価値の実現のために乗り越えたことを強調したい。

イ 実感を伴う理解を促す価値実現の難しさ

「何より命が一番大事だ」という生徒の捉えを大前提として、その中で「自分の命が犠牲になるかもしれない」ということを踏まえ、価値の実現の難しさを考えさせたい。

その際、田中さんの「足取りの重さ」から迷いがあることを考えさせ、検査に行かなければならない考えや、検査を休む考えを整理する。その上で、主人公に向き合わせ、この葛藤を実感させたい。

ウ 道徳的価値の理解を深める議論(問題に対する自己の取り得る行動について)

今回は、田中さんが価値を達成したことに対し、「自分だったらできるか」と問う。自分の気持ちを、心情円を使って表明し、仲間と話し合うことで道徳的価値を深めていきたい。

心情円は、心情によって「提供できる」「提供できない」「中間」の3つのグループに分ける。最初は自分の座席の近くの生徒と心情円の割合を作った理由を話す。その後、学級全体で交流し、できるだけ自分と違うグループの生徒と交流し、自分と違う意見を聞くことで、道徳的価値の理解を深めさせたい。

【手だて2】

学習活動に着目した評価の在り方

道徳の評価を以下の2点と捉え、授業の活動の中で評価場面を明確にした。

A 道徳科の授業でどのような学習活動の様子が見られたか。

(学習状況の様子)

B 発言、記述、パフォーマンス等、顕著な姿が見られた教材の学習で、そのような思いや考えを持てたのか / 考えを深められたのか。(成長の様子)

ア 学習活動の様子・発言の観察(主にAに関わる)

生徒の学習活動を観察し、評価に活かす。ことでは、【手だて1】に関わる活動と関わらせ、教材の登場人物に自分を置き換えて考えているか、自分の考えを深めたり、行動を見直したりしているか、他者との議論をする中で、道徳的価値の理解を深めているかを見取りたい。補助として、学習シートも利用する。

イ 道徳学習シートの活用(主にBに関わる)

学習中の自分の考えをまとめ、授業内の自分の思考過程を見ていきたい。プリントには、価値に近づく発問と、中心発問、授業の振り返りの3つをまとめる欄を作り、

価値に近づく発問のみを、事前に入れてある。学習活動中に生徒が書く活動は、「学習プリント」に発問に対して自分が考えたことや感想を記入させる。

ウ 価値意識の変容を自覚できる活動や、変容を表すシートの活用(主にBに関わる)

「心情円」を使用し、自分の価値意識の変容を見る活動を行った。本時では、「命が大切だから、田中さんは必ず患者を助ける」という授業の流れになると予想した。そこで、「自分が提供する立場であったら、どうか」という揺さぶりの質問を行い、自分の考えを心情円で表させた。その後、生徒間の意見交流を行い、変容を見た。



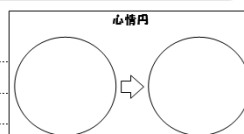
1. 田中さんが「骨髄を提供しよう」と決断させたものは何だろう。

2. [考えよう]

.....

.....

.....



3. [授業を振り返って] A意欲的にできた Bできた Cあまりできなかった Dできなかった

.....	1 教材について興味を持って読めたか	A B C D
.....	2 自分の考えを伝えることができたか	A B C D
.....	3 友達の考えを聞くことができたか	A B C D
.....	4 授業の内容について、深く考えることができたか	A B C D

【本時の学習シート】

(2) 授業の実際

ア 本時のねらい

悩みながらも自分の骨髄を提供した田中さんの思いを考えることを通して、人が互いに支え合って生きていくことの大切さを理解し、自他の生命を尊重しようとする心情を高める。

イ 本時の展開

	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	■指導の留意点 ▲評価 ◇研究に関わる手だて
導入	1. 本時のテーマや教材について知る。白血病や骨髄移植について説明する。	・提供の確率は低い。 ・適合しても手術のため、反対される。	■前時は自分の命の大切さを考えた。本時は「自他の命」。
5	田中さんが「骨髄を提供しよう」と決断させたものは何だろう。		
展開	2. 教材を読んで話し合う。 ①最後の検査の日、田中さんの病院に向かう足取りが重いのは、何を考えていたからだろう。	・子供にも自慢できる。 ・自分じゃなくても… ・知らない誰かの命を救えるが、自分が犠牲にするものが多い。	◇【手だて1】イ 足取りの重さから、葛藤を実感させる。 ▲【手だて2】ア 学習活動の様子・発言
40	②田中さんが「骨髄を提供しよう」と決断させたものは何だろう。 ③自分だったら、骨髄を提供できるかどうか考える。 *心情円を使ってペアトーク・全体議論を行い、もう一度心情円の割合を考える。	・自分の行動で、一人の人の命が救えること。 ・自分の命も大事だが、他の人の命も大切。 ・どんな命でも大事。 ・犠牲が多い。 ・こわい。 ・助けたい気持ちはあるが怖くてできない。	◇【手だて1】ア 登場人物に自分を置き換えて考える。 ▲【手だて2】イ 道徳学習シートの活用 ◇【手だて1】ウ 自分ならどうか?で、価値を深める。 ▲【手だて2】ウ 心情円・学習プリント
終末	3. 振り返りをする。 ・振り返りを記入する。 ・教師の説話を聞く。(この教材以後の2人について)	ウ 本時の評価の視点 田中さんの気高い生き方に共感し、自分の「いのち」と他人の「いのち」について考えを深めることができる。	

(3) 授業の概要と考察

【手だて1】

自己との関わりでの価値の深まりを
促す指導方法の工夫

ア 具体的なイメージ化を図る主発問

今回の授業の中心発問に関わる部分である。骨髄の「提供したい」「できない」葛藤を感じた田中さんが、「提供しよう」と決意した場面であった。

- T：田中さんが「骨髄を提供しよう」と決断させたものは何だろう。
S1：人の役に立ちたいという気持ち。
S2：自分だけが助けられる。
S3：知らない人でも救いたい気持ち

以上のように、「他者の命が大切」という道徳的価値を考えた発言をした生徒が多かった。しかし、

- S4：骨髄の提供は、手術もあって不安だけど、運命だと思い頑張ろう。
S5：自分の「できない」という気持ちだけで提供できないのは嫌だ。

などと、前の発問の葛藤部分を乗り越えて道徳的価値に近づいたことに気が付いた生徒もいた。

考察

日常生活の中や前時で「命は何よりも大切である」ということを理解しているので、話の流れを考えなくても「提供したい気持ち」を押し出す生徒が多かった。

数人ではあったが、田中さんの葛藤した気持ちを考えながら「できない気持ちを振り切り、提供する決意をした」というように、登場人物（田中さん）の思考をイメ

ジすることができた生徒もいた。

イ 実感を伴う理解を促す価値実現の難しさ

今回の授業では、田中さんの「病院に向かう足取りの重さ」の中の気持ちを考えさせた。田中さんの「提供したい」「できない」という思いの葛藤場面から、道徳的価値の実現の難しさを考えた。

- T：足取りが重いのは、田中さんが何を考えていたからだと思う？
S1：患者が知らない人だから。
S2：手術にもし失敗したら、自分の体がどうなるか分からない。
S3：注射の針が太くて、痛い思いをしてまで助けたいと思えない。

しかし、その後「足取りが重いけど進んでいるんだよね？」という補助発問に対し、

- S1：知らない人でも命を助けたいと思っている。
S2：自分が頑張れば、患者の命を助けられる。
S3：手術が失敗するのは怖いけど、人の命を助けられるのは自分だけ。

など、「検査に向かわなければならない」という田中さんの気持ちに気が付いたことにより、「悩みながらも、他者の命を大切にしたい」という価値に触れることができた。

なお、本時の補助発問は「田中さんの手」に注目させ、手の描写から「他者の命を握っていることや、命を感じる」と意識させようとした。



【「田中さんの手」に注目させている様子】

考察

田中さんの「病院への検査へ向かわなければならぬのに、足取りが重い」気持ちを考え、骨髄を「提供したい」と「できない」理由を整理させることができた。田中さんの葛藤に目を向けさせ、次の中心発問につなげることができた。

しかし、教師側の補助がなければ「足取りが重い＝いきたくない思いがいっぱい」だけの考えになった生徒が多かった。「足取りが重い」ということを、もっと分解して説明することで、骨髄を「提供したい」けど「提供したくない」という葛藤した思いを説明でき、その思いの中で道徳的価値の実現の難しさに気付くことができたと思う。

ウ 道徳的価値の理解を深める議論(問題に対する自己の取り得る行動について)

日常生活や前時、本時の田中さんの行動から、「命は何よりも大切だ」ということは、中学生ならば理解している。

それでは「自分ならばできるか」という、自己の行動を考えさせることで、気持ちの揺さぶりから価値の理解を深めようとした。

心情円で「できる」を青、「できない」を

赤として、心情を表現させると、以下の通りであった。

「提供できる」(青が大部分)	19名
意見・人の命を救えるのなら… など	
「中間」(青・赤がほぼ中間)	2名
「提供できない」(赤が大部分)	2名
意見・名前を知らない人のために痛い 思いをしたくない。 など	

その後、各自心情円を持って意見交流を行った。意見交流の後、心情円の割合が変わった生徒は数名しかいなかった。



【心情円を持って交流する場面】

考察

授業でねらう道徳的価値に近づき、「自分だったら」という問いから、価値を深めることを意図した。数名は、議論を経て、最初に作った心情円を動かし、「できる→できない」など大きく意見を変えることで、価値を深めることができた。

しかし、今回の授業では「提供する」の生徒がほとんど動かなかった。これは本時の中で「骨髄提供のリスク」の取り扱いをあまり重要視しなかったためと反省する。もっと「理想はそうだけど、現実…」と考える生徒が多くなることで、当たり前を感じる価値を深めたかった。

【手だて2】

学習活動に着目した評価の在り方

ア 学習活動の様子・発言の観察

【手だて1】に関わる活動の評価を、本時では「話し合い活動の様子」「学習シートの記入」などで評価した。

「学習シート」の記入をしているときに机間指導を行い、評価や授業の価値に近くことを記入している生徒を発言させるなど、授業に生かすことができた。話し合い活動についても、できる限りペアやグループの話し合いに耳を傾けた。

イ 道徳学習シートの活用

発問に対する自分の考えや心情円の色の割合など、自分の学習内容の記入をさせることで授業中の生徒の思考を見取った。アでも述べたが、机間指導をしながら生徒の考え評価し、授業の振り返りなどから1時間の学びを見取ることができた。心情円の交流の後、また心情円を動かした生徒には数名発言してもらったが、発言できなかった生徒には、振り返りに理由を書かせた。それによって、道徳的価値の変容を見取ることができた。



【プリント記入後のペアの意見交換】

ウ 価値意識の変容を自覚できる活動や、変容を表すシートの活用

中心発問後の「自分だったら田中さんのように骨髄を提供できるか」という道徳的価値を自分に近づけ、価値意識を自分に近づける活動を行った。そして、その変容を心情円で表現したり、円の割合の変化をまとめたりする活動を行った。

考察

【手だて2】については、本時の学習活動の中に評価の場面をそれぞれ位置付けて取り組んだので、概ねねらい通りとなった。

普段の授業の中では、アの活動の観察とイ・ウでの学習シートを使用した評価と分けることで、評価の場面や視点をはっきりできると感じた。

2. 【考えよう】

これ11 思う気持ちかひなめてはなけれど、患者さんもその家族の人たちも生きてほしいと思っているし、自分のおかげでよかったか

3. 【授業を振り返って】 A意欲的にできた Bできた Cあまりできなかった Dできなかった

私はもし、自分が逆の立場だったらと思うと提供したいと思う。今日の学習で、11のちは他人のであろうと自分のであろうと大切なものは変わりなりのか大事にしたいと思った。

心情円

1 教材について興味を持って読めたか	A B C D
2 自分の考えを伝えることができたか	A B C D
3 友達のことを聞くことができたか	A B C D
4 授業の内容について、深く考えることができたか	A B C D

【イ・ウに関わる道徳学習シート】



【心情円の作成】

(4) 成果と課題

ア 成果

- ・【手だて1】に関わって、発問と活動によって、価値を深めることができた。「命が大切である」という道徳的価値を獲得している生徒に対し、田中さんの葛藤、そして生徒自身の葛藤を考えさせたことによって、価値を深めることができた。加えて、裏テーマの「手」の描写も、効果的だった。

- ・【手だて2】に関わって、活動と評価を結び付けて取り組ませたため、評価の場面や視点をはっきりできると感じた。

- ・授業全体に関わって、「授業時間半分より前での中心発問への到達」にこだわって取り組んできたことや、新しく取り組んだ「ユニット教材」「構造的な板書き」「『自分だったら…』という発問」など新しい挑戦に取り組むことができた。

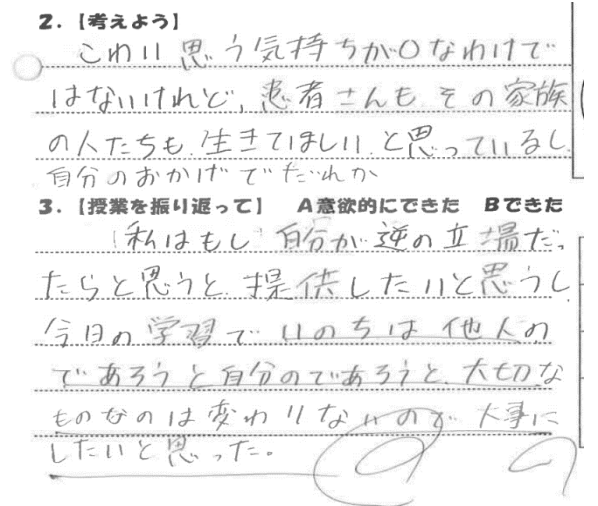
「特別な教科 道徳」に変わったことで、私自身、これからも学び続けていきたい。

イ 課題

- ・【手だて1】に関わって、教師と生徒の一问一答形式になっていた。もっと共感させるために「何で?」「なぜそう思うの?」などと発言を掘り下げる発問が必要であった。

心情円の使う際に、生徒の思考の流れを読んで取り組めばよかった。今回は骨髓提供の「自己犠牲」の強調が弱く、生徒が「自分なら提供する」とあまり考えず話している生徒が多かった。葛藤場面を考えさせるうえで、「中間層」の考えを聞いたり、心情円を動かした理由をもっと取り扱うことで、もっと道徳的価値が深まると感じた。

- ・【手だて2】に関わって、「通知表の評価の形」を明確にして取り組んだ。しかし、評価の形はこれだけではないし、授業の中の活動の評価のためには、もっと教師と生徒、生徒同士の対話を増やし、それを見取ることができるよう努力する必要がある。



【生徒の振り返りシート】



【本時の板書】

X 研究のまとめ

考え、議論する授業への質的改善を図った授業実践を進めたことにより、次のような成果と課題が明らかとなった。

1 成果

(1) 問題意識を高め、主人公への自我関与や議論を通して対話的に深める手立てを講じることにより、道徳的価値に主体的に向き合いながら自己を見つめようとする学習活動が展開できること。

4つの学校の実践事例から、当事者意識をもって学びあうことができる学習活動を工夫したことにより、道徳的な問題や道徳的価値に自分の問題として主体的に向き合い、深い価値の理解（価値理解・他者理解・人間理解）と、それに基づいた自己理解を深める児童生徒の姿が見られた。

導入において、生活経験やアンケート結果を振り返って捉えた現有の価値意識を問題意識につなげたり、展開において、主人公への自我関与を促す発問や納得できる考えを見出す話し合い活動を通して深めた価値の理解を自己理解につなげたりと、教材の特質を生かした学習活動の工夫によって、授業の質的改善を図ることができた。

また、話し合い活動の方法や位置付けを工夫したことにより、児童生徒が道徳的価値に関わる事象を主体的に考え、話し合いを通して、よりよい自分の生き方を導き出し、いこうとする姿につながった。

4校の実践事例のように、自分自身との関わりでの価値の深まりを促す指導方法を工夫することで、児童生徒が主体的に学習に取り組むことができるようにすることが大切である。

(2) 一単位時間の学びの姿を適切に把握

し評価することにより、児童生徒自身が変容を自覚し、実践意欲や態度につなげることができること。

4つの学校の実践事例から、「学習活動に着目した評価」を適切に行うことにより、一面的な見方・考え方から多面的・多角的な見方へ発展している変容や、道徳的価値の理解を自分自身との関わりで深めている姿を認め励ますことができた。

本実践のように、学習活動に着目して評価を行うという意識の基、授業を構想し展開することにより、児童生徒自らが道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、新たな生き方の課題やよりよく生きていこうとする心情を高めたりすることができた。

また、評価を通して、授業者自身が、学習指導過程や指導方法の妥当性を振り返ることができ、道徳性を養う指導の改善につながった。

2 課題

(1) 多様で柔軟な指導方法の在り方

- ①問題意識の高め方
- ②多様な考えを引き出す発問の工夫
- ③納得できる考えを見出す学びあいの在り方

(2) 評価の充実

- ①評価のための具体的な工夫
- ②評価の妥当性の検証
- ③授業改善に資する多面的・多角的な評価の工夫

《引用・参考文献等》

・学習指導要領解説 特別の教科道徳編

(平成29年6月 文部科学省)